

2015-16 年度 国際ロータリー第 2690 地区
地区補助金奨学生最終報告書
久野 愛

1. 学業面での成果

奨学生としての 1 年間の中で、学業面での最も大きな成果は修士論文を終えたことでした。修士論文の詳細は第二回・第三回の間接報告書にて既に述べましたが、スウェーデン国民の社会保障番号(PIN)を利用し、レジスターベースの研究を行うことができました。こうしたビッグデータの学術的利用は、まだ世界でも限られた国でしか行うことができないため、大変貴重な機会となりました。また、執筆した修士論文は **Excellent** という最高評価を頂くことができました。

さらに、研究をすすめる中で得ることができた多くの出会いも、私にとっては大きな成果の一つでした。私が所属する **CHESS** という研究機関は、公衆衛生学の中でも健康格差という問題を大きな研究テーマとして掲げており、健康の社会的決定要因についての研究を主に行っています。多くの大学が公衆衛生学の研究室を医学部におく中で、社会学的な側面から研究を行う機関は少ないとのことで、三重大学医学部助教の山崎 亨先生が **CHESS** へ視察にいらっしやり、日本とヨーロッパの公衆衛生学研究の違いについてゆっくりお話を伺うことができました。また、東京大学医学系研究科の国際保健政策学教室の講座に参加させて頂く機会もあり、**University College London** の **Noriko Cable** 研究員からライフコース疫学に関するお話を聞くこともできました。さらに、修士論文の執筆前にはヨーテボリ大学での講座を受講し、ビッグデータの活用に伴う倫理的な問題や分析結果の解釈の多様さを学ぶことが出来ました。その後もスウェーデン国内でレジスターベースの疫学研究を行う複数の大学を訪問する中で、スウェーデン国内の公衆衛生学の多くの研究者とも出会うことができました。

2. 参加したロータリー活動・プロジェクト内容

Stockholm-Sergel、**Stockholm-Strand**、**Stockholm-Kungsholmen Frukost** の 3 つのロータリークラブで定例会に参加させていただきました。また、**Sergel** ロータリークラブと **Kungsholmen-Frukost** ロータリークラブでは、自分の研究や鳥取ロータリークラブについてのプレゼンテーションを行いました。

また、カウンセラーの **Fleetwood** さんと定期的にお会いしお食事をしたり、**Sergel** ロータリークラブを中心に、定例昼食会に頻繁に参加したりと、ロータリアンの皆様と交流する機会を多くとることができました。論文の執筆が本格化した 3 月以降は、特に 1 人で黙々と作業をすることが多かったため、**Sergel** ロータリークラブの方々とお会いし、研究の進み具合についてお話できたことはモチベーションを高めるきっかけとなりました。また、大学の勉強はほとんど英語で行っていたのですが、個人的にスウェーデン語も勉強し

ていたため、ロータリークラブで皆様とお話する際は、拙いながらもスウェーデン語で会話をすることができました。私が分からなくなった際には英語で説明を頂くなど、とても温かく接していただきました。

また、Sergel ロータリークラブでは7月から8月の半ばにかけての夏休み期間は定例会を行わないため、新会長の就任式が6月に行われました。新しく就任された Hans Gillor 会長は、中学生の頃に東京に住んでいらっしやったということで、日本の文化に大変精通されていました。また、Gillor 会長の就任式が行われた定例会は、私が奨学生として参加する最後の日であったため、鳥取ロータリークラブと Sergel ロータリークラブのバナー交換も行いました。



写真: Gillor 新会長とバナー交換



写真: Sjöberg 前会長と

3. 直面した課題、問題点等

スウェーデンでは、夏と冬の休暇前後にはあまり活動を行わないロータリークラブが多く、限られた日程しか開催されない冬の定例会がインターンシップ期間にあたってしまったため、12月～2月頃にかけてはロータリーの皆様とあまり交流を取ることができませんでした。それ以外の学業面・生活面に関しては、ほとんど問題なく過ごすことができました。

4. 今後の課題、キャリア目標

まずは8月から9月にかけて、修士論文をベースにし、新たなデータを加えた上で、学術誌投稿用に新たに短めの論文を書きます。投稿先等はまだ未定ですが、8月以降に担当教授と話し合いを重ねて決める予定です。また、その期間を含め、来年2月頃までを目処に CHES にて研究助手として働くことになりました。今後は、公衆衛生学や疫学、精神保健等に関連のある仕事をスウェーデンで行いたいと思っているため、助手として働く期間中に、博士課程に進むか、スウェーデン国内の企業や役所等に就職するかを考えたいと思います。

5. 今後のロータリー活動への参加

8月下旬に、新年度として初の定例会が **Sergel** ロータリークラブで行われるため参加したいと思います。また、7月に鳥取ロータリークラブにて報告を行った際に新しくバナーをいただいたので、交流のある **Strand** ロータリークラブや **Kungsholmen-Frukost** ロータリークラブともバナーの交換を行い、引き続き活動に参加したいと思います。

また、鳥取ロータリークラブの皆様はいつも温かく迎えてくださり、本当に鳥取に帰ってきてよかったなと思う場所なので、これからも継続して交流したいと思います。

6. 今後の奨学生への助言

私が直面した1番の課題は、ロータリークラブの活動とスケジュールを合わせることでした。私の場合、12月～1月中旬にかけては定例会よりも事前予約制のイベントが中心となることを事前に知らず、冬の間は活動にあまり参加出来ませんでした。日本のロータリークラブと1年の大体の流れは同じですが、文化の差や働き方の差などにより、クラブの活動やカウンセラーとの交流のあり方など、少しずつ異なるかと思います。そのため、これから奨学生になる皆様には、渡航後に最初に現地のロータリークラブを訪問する際に、まず大まかな1年のスケジュールを聞き、どのようなタイミングでプレゼンテーションを行い、どのような活動に参加していきたいかを積極的に伝えることをお勧めします。また、英語圏以外に留学される皆様には、英語と現地の言語の両方を可能な限り習得してから渡航されることを勧めます。勉強やロータリアンとの交流の幅が大きく広がると思います。

7. 最後に

2690 地区の皆様のご支援により1年間奨学生として留学できたこと、心よりお礼申し上げます。奨学生としての1年の間に、今後の道が切り開け、海外で働くという自分の夢に限りなく近づくことができました。今後も、ロータリーの元奨学生として恥じることの無いよう、自分自身の研究や仕事に打ち込みつつ、鳥取とスウェーデンのロータリアンの皆様との交流も継続していきます。今後とも宜しくお願い致します。